

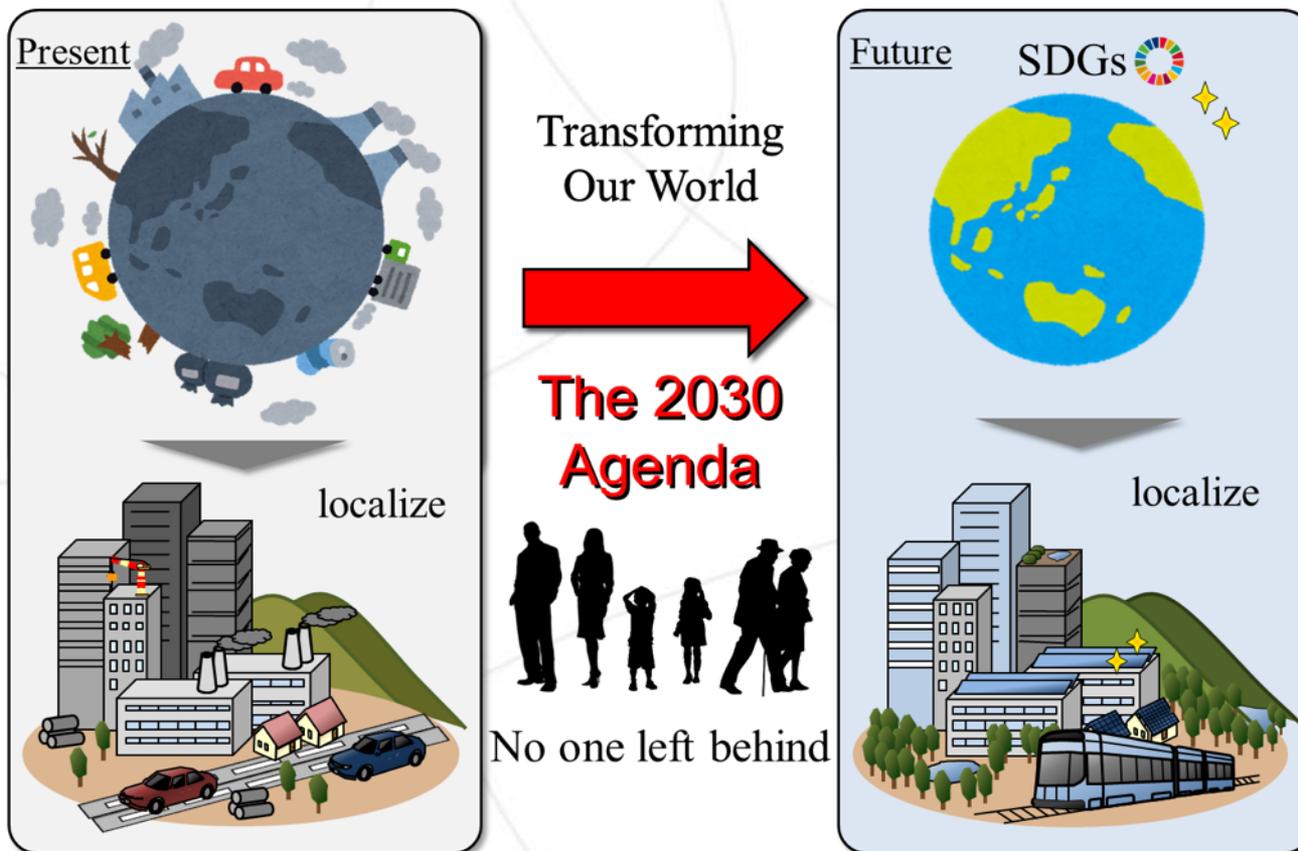
環境研究総合推進費 課題番号: 1-2104
ローカルSDGs推進による地域課題の
解決に関する研究 (JPMEERF20211004)
(2021.4 ~ 2024.3)

主:【重点課題①】持続可能な社会の実現に向けたビジョン・理念の提示
副:【重点課題②】ビジョン・理念の実現に向けた研究・技術開発

サブテーマ1	法政大学 デザイン工学部 教授	川久保 俊 (研究代表)
サブテーマ2	兵庫県立大学 環境人間学部 准教授	増原 直樹
サブテーマ3	大阪大学 工学研究科 助教	松井 孝典

1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
3. 研究目標及び研究計画
4. 研究開発内容
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況

1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
3. 研究目標及び研究計画
4. 研究開発内容
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況



ローカルSDGsの策定支援を通じて地域課題の解決に貢献

- ・SDGsへの取り組みを開始する自治体関係者への有益な情報（各地域の長所、課題等）の提供
- ・ローカルSDGsに関する各地域の取組成果の共有やニーズ・シーズ情報のマッチング等を通じてオープンイノベーションを誘発するプラットフォームの開発
- ・SDGsプラットフォームを活用したアウトリーチ活動を通じた研究成果の社会実装

1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
- 3. 研究目標及び研究計画**
4. 研究開発内容
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況

研究目標及び研究計画

令和3年度
令和4年度
令和5年度

①SDGsの視点に基づく各自治体の特徴把握

〈サブテーマ1〉 SDGs取組状況の可視化



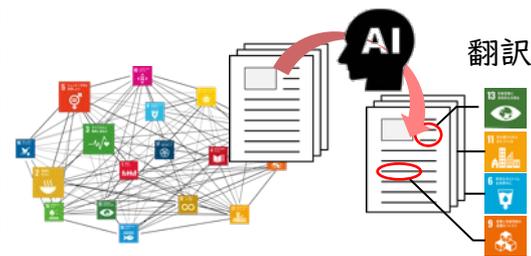
- ・全国のSDGs取組状況を把握するシステムの開発

〈サブテーマ2〉 地域におけるSDGs実装評価



- ・全国調査を通じて自治体のSDGs実装における課題を把握

〈サブテーマ3〉 データ駆動科学の展開



- ・SDGs概念翻訳AIの開発
- ・SDGs連環構造の可視化

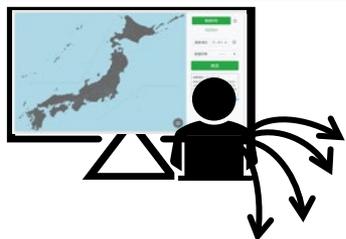
統合

②SDGsオープンイノベーションプラットフォームの開発

- ・調査したデータを格納するオンライン指標データベースの開発(サブ1×サブ2)
- ・SDGs概念翻訳システムのプラットフォームへの実装・マッチング支援(サブ1×サブ3)

活用

③ローカルSDGsの推進および地域循環共生圏の形成に向けたビジョン・計画の策定支援



- ・関係者への情報の提供
- ・ニーズとシーズをマッチングする「場」の提供
- ・ローカルSDGsの推進、地域循環共生圏の形成に向けたビジョン、計画の策定支援



課題の多い現状

EBPMを活用した
政策決定/目標設定

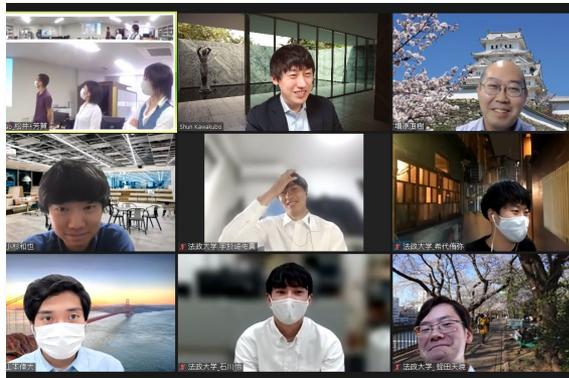
自治体×企業等

達成手段としての
オープンイノベーション



持続可能な
地域の実現

これまでの歩み (サブテーマ間の密な連携による研究の推進)



2021年5月
キックオフ会合



2021年12月
アドバイザリ会合



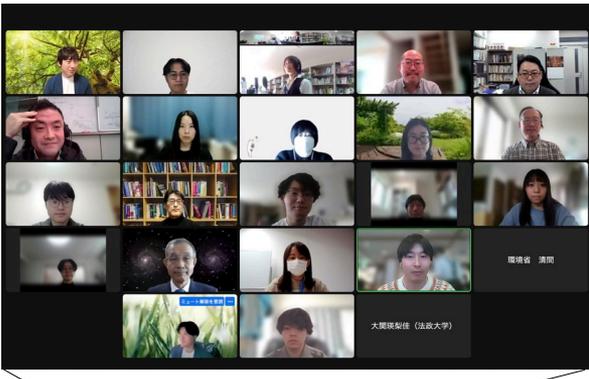
2022年7月
第10回定期会合



2022年12月
アドバイザリ会合



2021年12月
アドバイザリ会合



2023年12月
アドバイザリ会合



1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
3. 研究目標及び研究計画
- 4. 研究開発内容**
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況

研究開発内容

【サブテーマ1】 **法政大学** (担当: 川久保)  法政大学
HOSEI University

自治体における課題解決に資するSDGsオープンイノベーションプラットフォームの開発

- ・自治体のSDGsの取り組みの進捗度を定量的に把握するためのシステム開発
- ・地域課題を解決するための「SDGsオープンイノベーションプラットフォーム」の開発
- ・ローカルSDGsの推進、地域循環共生圏の形成に向けたビジョン・計画の策定支援

知識駆動型モデリング
(Knowledge → Intelligence)

【サブテーマ2】

地球研 (担当: 増原)  大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

地域におけるSDGs実装評価研究

政策評価分析 (Policy Assessment)

- ・SDGs関連計画を用いたKPI全国調査
- ・SDGsを用いた自治体施策の評価手法の構築

SDGs未来
都市等の
全国自治体



ローカル
SDGsの
実装

持続可能な社会の実現



データ駆動型モデリング
(Data → Intelligence)

Society 5.0 for ローカルSDGsのためのデータ駆動科学の展開と知能情報システムの開発

- ・SDGsの目標・ターゲット間の連環構造 (nexus) 仮説の自動生成と可視化システムの開発
- ・SDGs概念写像エンジンの実装によるローカルSDGs計画立案支援システムの構築

【サブテーマ3】 **大阪大学** (担当: 松井)  大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

データと知識の連携

データと知識の連携

1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
3. 研究目標及び研究計画
4. 研究開発内容
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況

調査の目的	全国の自治体におけるSDGsの取組動向等を把握する
調査実施主体	自治体SDGs推進評価・調査検討会
調査時期	毎年10月上旬～11月下旬頃
対象自治体数	1,788自治体(47都道府県、1,718市町村、23特別区)
質問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. SDGsの認知度 2. SDGsの関心度 3. SDGsの推進の方向性 4. SDGsの推進に際しての課題や障壁 5. SDGsの推進のメリット など

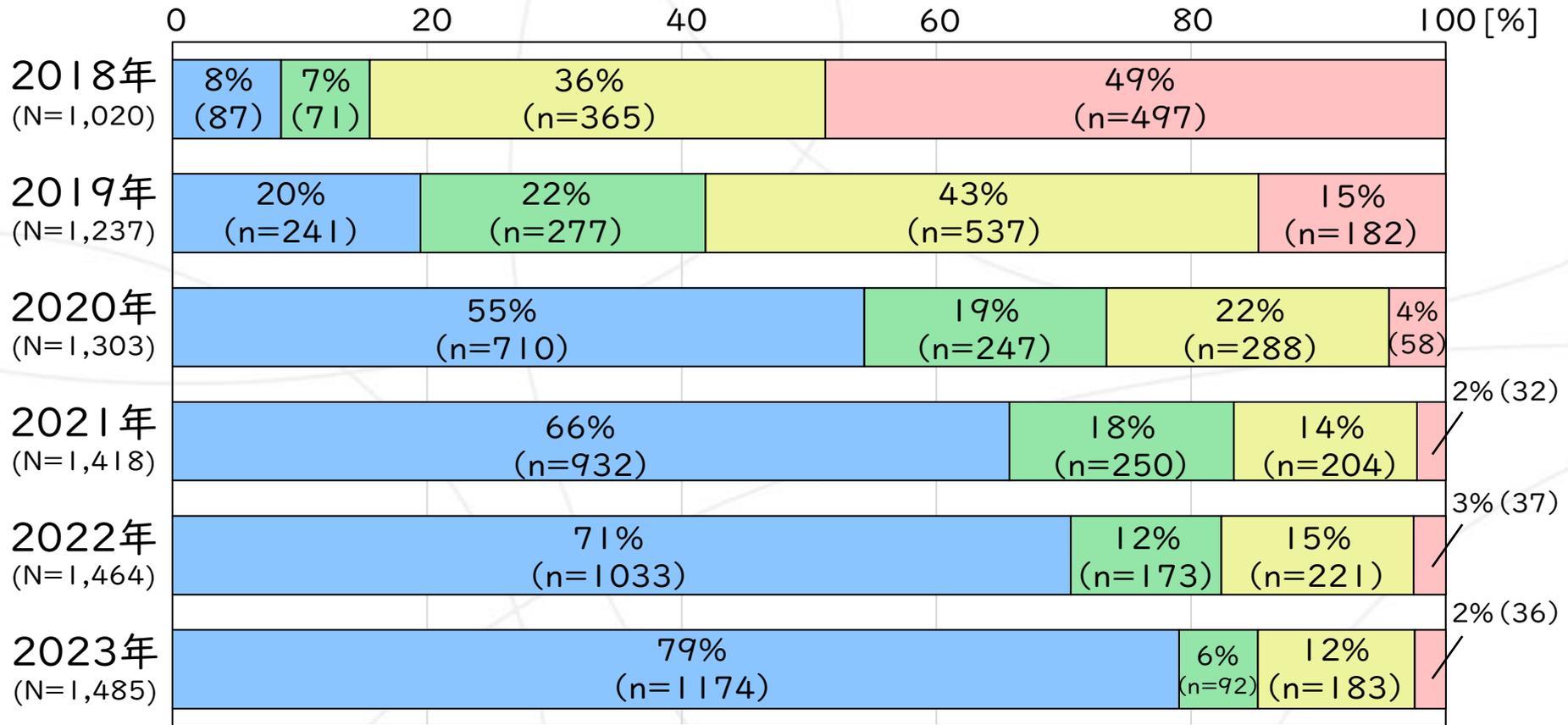
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
回答自治体数	1,020	1,237	1,303	1,418	1,464	1,485
回答率	57.0%	69.1%	72.9%	79.3%	81.9%	83.1%

SDGs達成に向けた取組状況

ST1

ST2

ST3



■ 推進している

■ 今後推進を検討していく予定がある

■ 今後推進していく予定がある

■ 推進しておらず今後推進していく予定もない

SDGsに対する取組度は年々拡大傾向にある

SDGs達成に向けた取組を推進する際の障壁

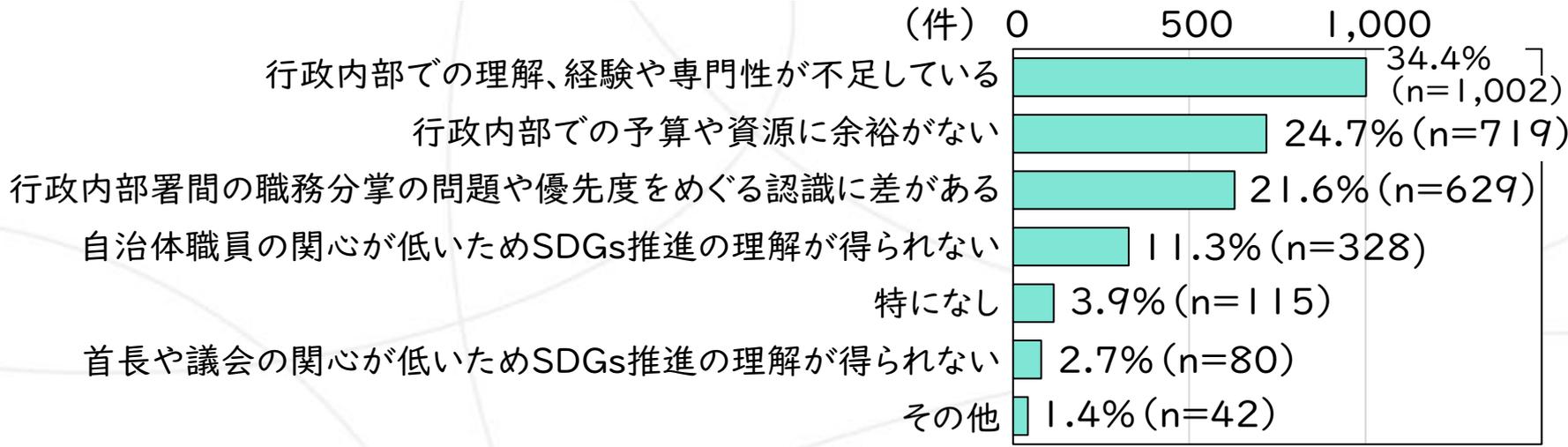
ST1

ST2

ST3

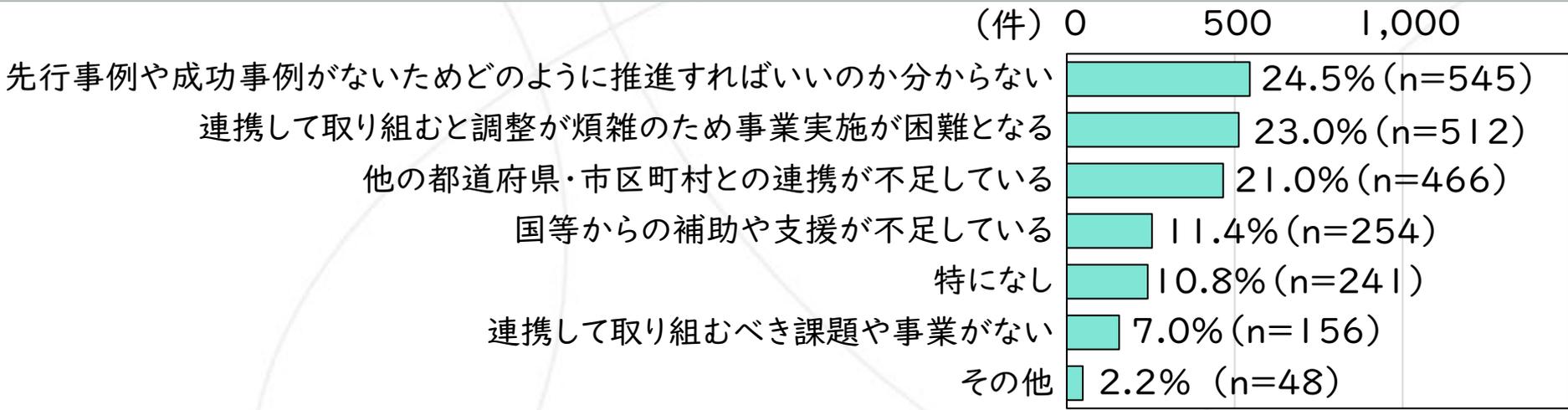
自治体内部におけるバリアー

複数回答可 (N=2,915)



他の自治体との連携に関するバリアー

複数回答可 (N=2,222)

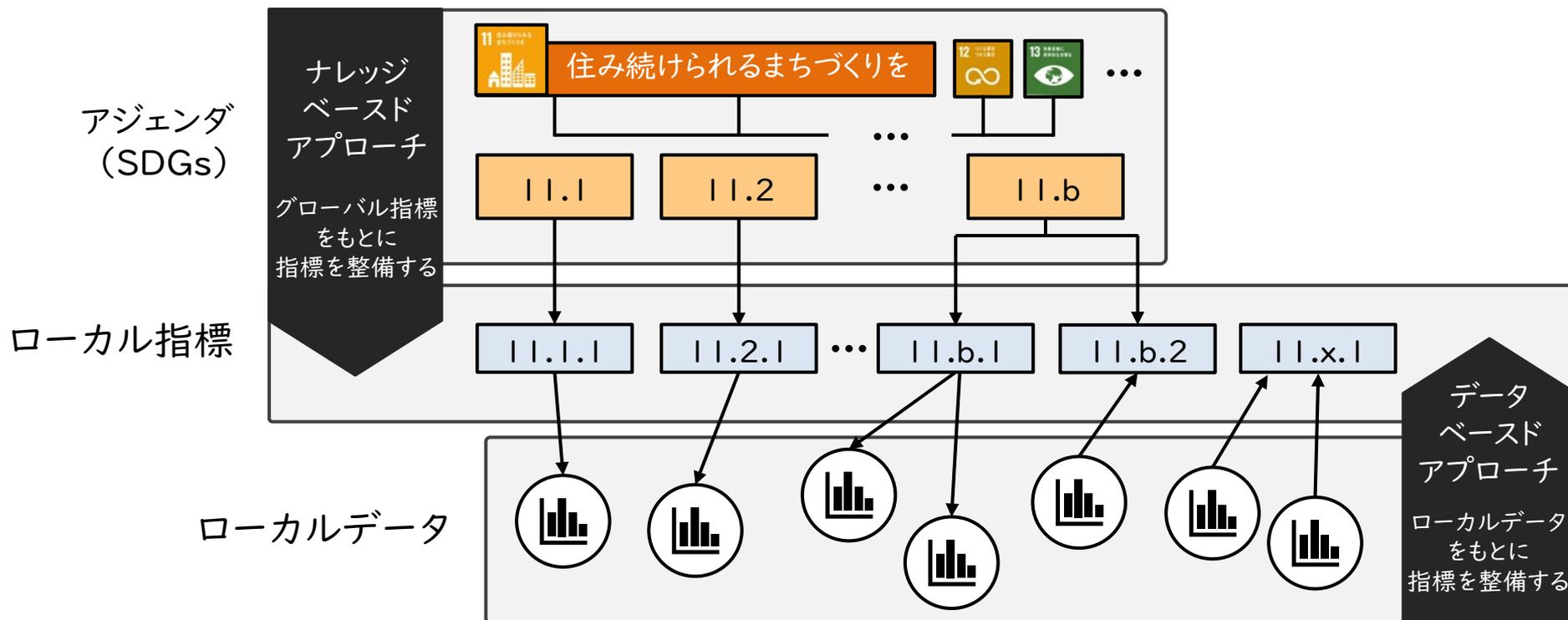


多くの自治体で専門知識や事例が不足している

グローバル指標には自治体レベルでは活用できない指標が多く存在

⇒ SDGs達成に向けた取組の進捗管理や評価を行うことが困難

⇒ 日本の自治体に適した内容に指標を読み替え(ローカライズ)



2つの互いに相補的なアプローチで指標を整備

地方創生SDGsローカル指標リスト

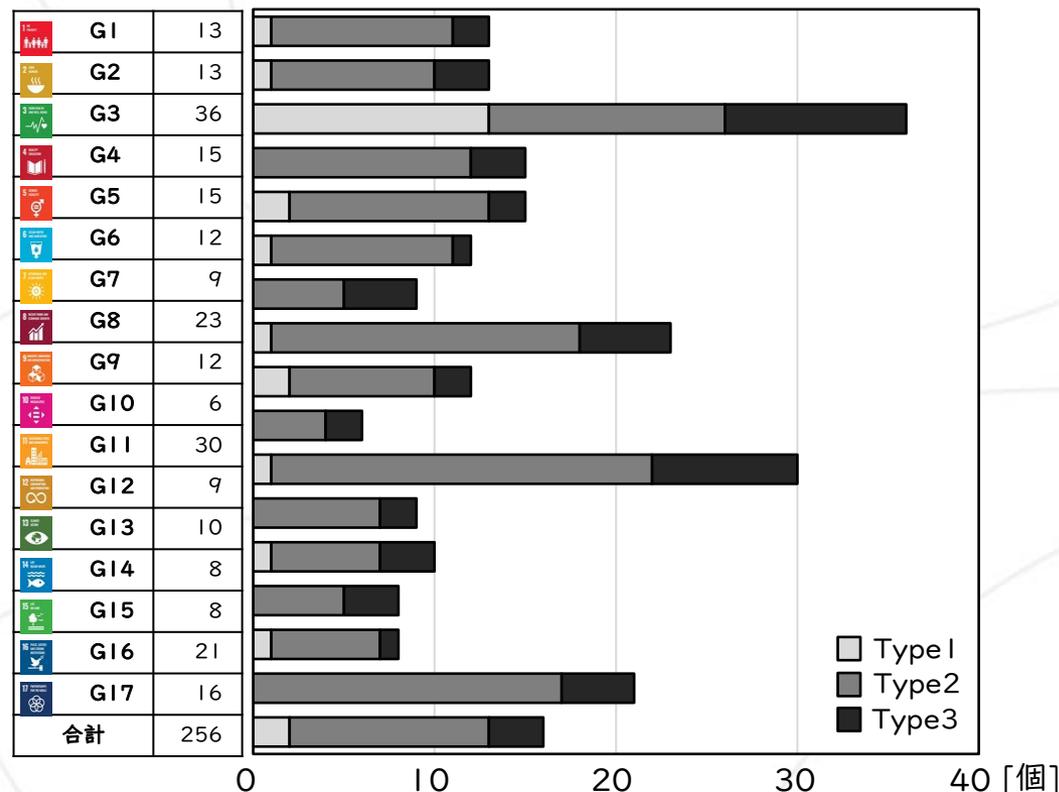
(2022年9月改定版)

自治体SDGs推進評価・調査検討会

<自治体SDGs推進のためのローカル指標検討WG>

【事務局】 内閣府地方創生推進事務局

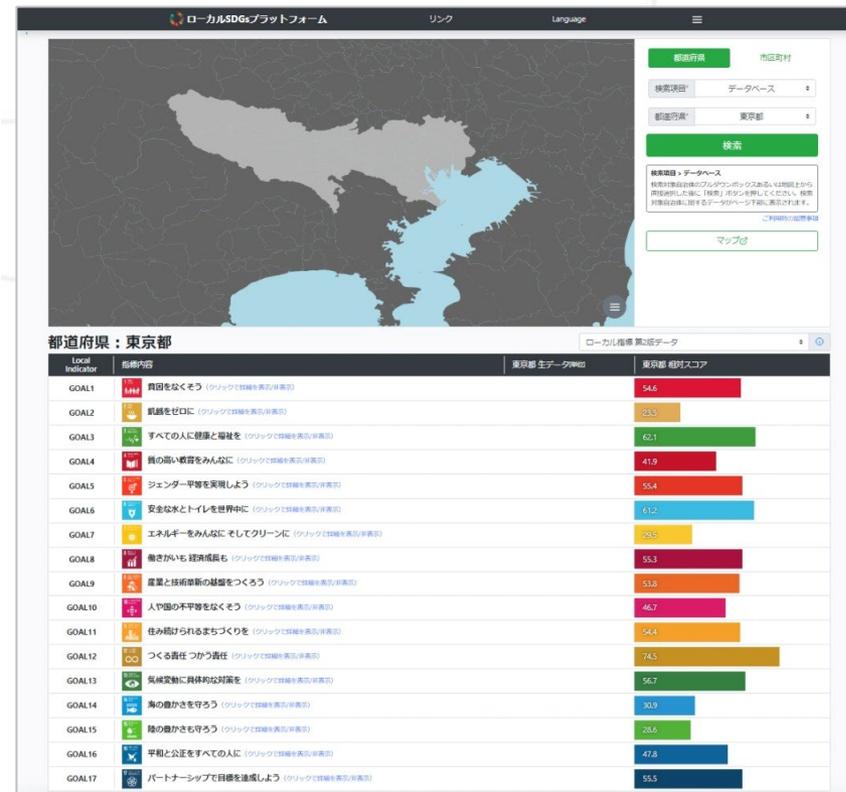
ゴール別指標数



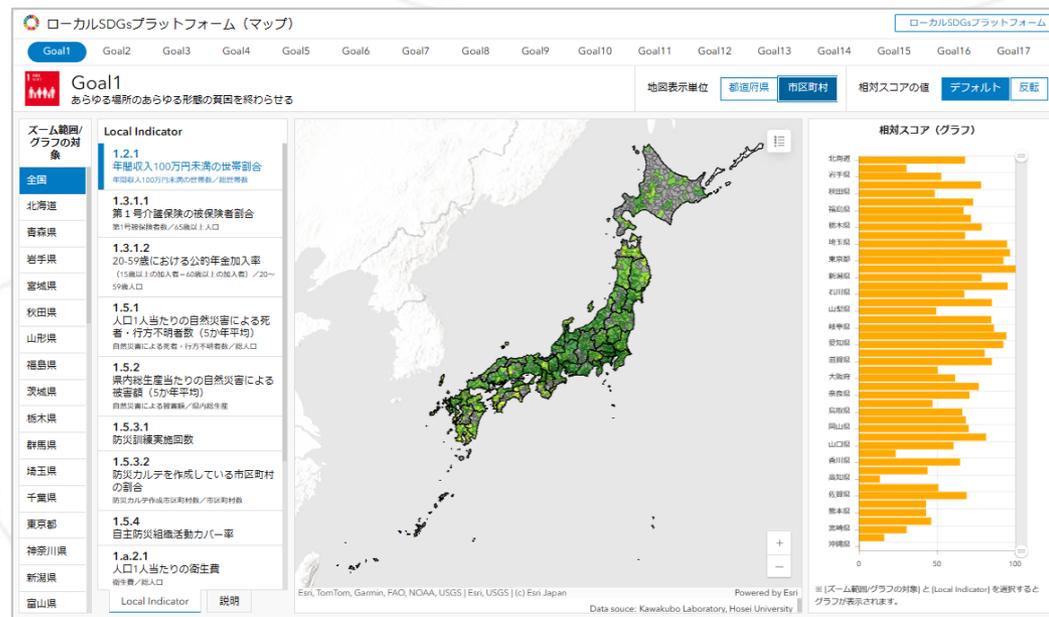
Type 1: グローバル指標を引用したローカル指標 (軽微な修正含む場合あり)
 Type 2: グローバル指標を読み替えたローカル指標
 Type 3: 日本固有の課題を考慮するため独自に追加したローカル指標

計256のローカル指標を『地方創生SDGsローカル指標』として
 2022年9月に内閣府HP上で公表

特定の自治体におけるSDGs進捗状況を指標毎に可視化した「ダッシュボード」表示



特定の指標におけるSDGs進捗状況を自治体毎に可視化した「マップ」表示



ローカル指標を用いて測定した全国自治体におけるSDGs進捗状況は『ローカルSDGsプラットフォーム』上で公開中

LEVEL 1 取り組み事例を探す

SDGsの理解促進・普及啓発

『SDG Action DB』

絞り込み検索・地図検索

LEVEL 3 取り組みを整理する

LEVEL 2 これからの取り組みとSDGsの紐付け

LEVEL 3 これからの取り組みとSDGsの紐付け

SDGs Portfolioの作成

- プロフィール**
自身（自身が所属する組織）について簡単な紹介をすることができます
- SDGs取り組み宣言**
持続可能な社会の実現に向けて取り組む自身（自身が所属する組織）の意思を表明することができます
- これまでの取り組み**
自身（自身が所属する組織）がこれまで行ってきた取り組みをSDGsのゴール別に整理して発信することができます。持続可能な社会の実現に向けてこれから何ができるかを検討する前に、一度これまでの取り組みを振り返ってみましょう
- これからの取り組み**
社会の潮流や地域のニーズを踏まえた自身（自身が所属する組織）のこれからの取り組みを掲げることができます。これまでの取り組みを基に独自の持続可能な社会の実現に向けた取り組みを検討し、掲げてみましょう

LEVEL 5 取り組みを振り返る

取り組みのフォローアップとレビュー

マッチング機能

指標による進捗管理

LEVEL 4 取り組みを実施する

SDGs達成に向けた取り組みの実践

プロジェクト

持続可能な社会の実現に向けた「中長期的な取り組み」を発信できます

アクティビティ

活動報告として、取り組みを実施している個人や組織の「日々の活動」を発信できます

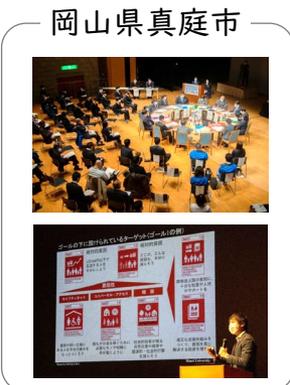
ニーズ・シーズ

取り組みを進める上で生じた課題を解決するために、ニーズ（他のユーザーへの要望・依頼）を発信できます。また、シーズ（他のユーザーの取り組みをサポートできる情報）を発信できます。他のユーザーと協力して、取り組みを飛躍的に進めるきっかけを得ることができます

SDGsに関連する取り組みや情報の発信

これまでに研修会やセミナー等を実施した自治体

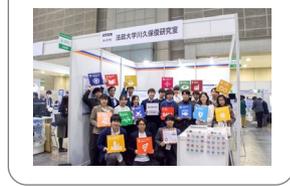
行政職員や地域事業者、市民等を対象とした
SDGs研修・セミナー等を全国で実施



- 埼玉県熊谷市
- 埼玉県入間市
- 埼玉県春日部市
- 埼玉県三芳町
- 埼玉県さいたま市
- 埼玉県越谷市

- 千葉県成田市
- 東京都板橋区
- 東京都北区
- 東京都文京区
- 東京都千代田区
- 東京都新宿区
- 東京都府中市
- 東京都日野市
- 東京都江東区
- 神奈川県川崎市
- 神奈川県横浜市
- 神奈川県鎌倉市
- 神奈川県藤沢市

- 静岡県伊東市
- 静岡県富士宮市
- 静岡県富士市
- 静岡県浜松市



地域循環共生圏づくりを目指して取り組む複数の自治体(箱根町、富士市等)の支援を
関東EPO(関東地方環境パートナーシップオフィス)と連携して実施

第5回～第7回 箱根町の地域循環共生圏プラットフォーム構築事業の意見交換会



第4回～第5回 富士市の地域循環共生圏プラットフォーム構築事業の意見交換会



ローカルSDGs (地域循環共生圏) の実装支援

ローカルSDGs・地域循環共生圏の構築に向けた地域内の取り組み情報を集約した特設サイトの開設を通じて全国各地の取り組み動向を可視化

特設サイトの開設事例：豊田市、岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村、伊東市、日本博覧会協会EXPO共創事務局など

現在も広域自治体、政令指定都市、全国に支店を有する大企業などがSDGsに関する特設サイトの開設を予定

ローカルSDGs・地域循環共生圏の構築に向けた地域内の取り組み情報を集約した特設サイトの開設を通じて全国各地の取り組み動向を可視化

特設サイトの開設事例：豊田市、岡山市・倉敷市・真庭市・西粟倉村、伊東市、日本博覧会協会EXPO共創事務局など



ローカルSDGsの推進を強力に支援するために、自治体におけるSDGs推進状況を詳細に分析



自治体へアンケートやヒアリングを行うことで課題点をより深く把握



現在も広域自治体、政令指定都市、全国に支店を有する大企業などがSDGsに関する特設サイトの開設を予定

調査の目的	SDGs未来都市に選定された自治体における、自治体の総合計画(基本計画)とSDGsとの関係を分析し、SDGs政策推進に向けた課題を抽出する
調査時期	2021年11月～2023年1月
対象自治体数	15自治体 SDGs未来都市155を指定年度別、地方別、人口規模別の3視点で分類し全体に偏りなく抽出
対象者の所属部署	SDGs担当課 SDGs未来都市推進課、政策企画課など
質問内容	1.未来都市への申請の契機 2.各自治体のSDGs政策の重点及び進捗状況 3.総合計画等の行政計画におけるSDGs対応の現状 4.SDGsを庁内や市民に普及するための工夫、研修等 5.SDGsの取組み全般に関する課題 6.SDGs未来都市制度への要望 など

経済・社会・環境の3側面と統合することが困難



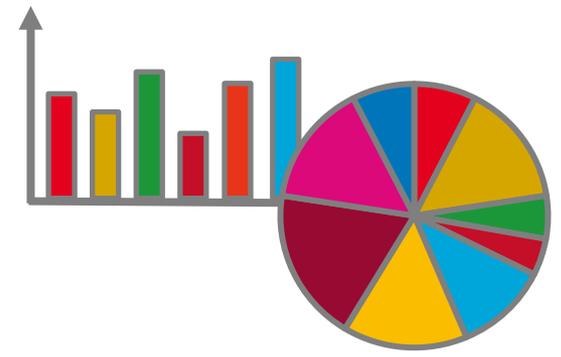
どのように整理できるか
知見がない

従来の政策を単純に延長しただけのSDGs政策



変化（イノベーション）
がない

一向に深まらないSDGsに関する取り組み



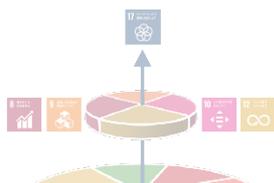
SDGsを用いた評価結果の
活用方法が不明である

ヒアリング結果から一部抜粋し整形

SDGsの理念に沿った取組手法に関する知見が求められている

経済・社会・環境の3側面と
統合することが困難

経済



従来の政策を単純に
延長しただけのSDGs政策



一向に深まらないSDGsに
関する取り組み



自治体のSDGsに関する専門性の不足問題の 解決を支援するAIを開発

知見がない

がない

活用方法が不明である

ヒアリング結果から一部抜粋し整形

SDGsの理念に沿った取組手法に関する知見が求められている

SDGs達成に向けた取り組みの内容をAIが分析（日本語/英語対応済）

ニーズ：大阪府岸和田市

「だんじり」だけじゃない魅力を伝えたい！



- 課題及び取組等の詳細や、サポートしてもらいたいこと、連携して解決方法を検討したい課題など
- 知名度はそれなりにあるが、マイナスイメージを持つ人も多い。城下町としての歴史や風情があり、自然も多く、農業・漁業が盛んで豊かな食文化など「だんじり」以外の魅力もたくさんある。そういった多彩な魅力を、伝わりやすい手法でアピールしたい。

<https://future-city.go.jp/platform/matching/request/21.html>

<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/danjiri/>

Reference: unknown

Prediction: [0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, 1, 1, 0, 0]

GOAL 01: No Poverty 0.003

GOAL 02: Zero Hunger 0.015

GOAL 03: Good Health and Well-being 0.003

GOAL 04: Quality Education 0.001

GOAL 05: Gender Equality 0.002

GOAL 06: Clean Water and Sanitation 0.002

GOAL 07: Affordable and Clean Energy 0.004

GOAL 08: Decent Work and Economic Growth 0.045

GOAL 09: Industry, Innovation and Infrastructure 0.03

GOAL 10: Reduced Inequality 0.011

GOAL 11: Sustainable Cities and Communities 0.002

GOAL 12: Responsible Consumption and Production 0.999

GOAL 13: Climate Action 0.004

GOAL 14: Life Below Water 1.0**GOAL 15: Life on Land 1.0**

GOAL 16: Peace and Justice Strong Institutions 0.002

GOAL 17: Partnerships to achieve the Goal 0.016

[###知名度はそれなりにあるが、マイナス###イ###メージを持つ人も多い。城下町としての歴史や風###情があり、自然も多く、農業漁業が盛んで豊かな食###文化など「だ###んじ###り」以外の魅力もたくさんある。そういった多彩な魅力を、伝わりやすい手法でアピールしたい。###]

↑ 例：自治体のニーズ

取り組みに関する文章とSDGsの関係を定量化した

Reference: unknown
Prediction: [0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1, 0, 1, 1, 0, 0]

- GOAL 01: No Poverty 0.003
- GOAL 02: Zero Hunger 0.015
- GOAL 03: Good Health and Well-being 0.003
- GOAL 04: Quality Education 0.001
- GOAL 05: Gender Equality 0.002
- GOAL 06: Clean Water and Sanitation 0.002
- GOAL 07: Affordable and Clean Energy 0.004
- GOAL 08: Decent Work and Economic Growth 0.045
- GOAL 09: Industry, Innovation and Infrastructure 0.03
- GOAL 10: Reduced Inequality 0.011
- GOAL 11: Sustainable Cities and Communities 0.002
- GOAL 12: Responsible Consumption and Production 0.999**
- GOAL 13: Climate Action 0.004
- GOAL 14: Life Below Water 1.0**
- GOAL 15: Life on Land 1.0**
- GOAL 16: Peace and Justice Strong Institutions 0.002
- GOAL 17: Partnerships to achieve the Goal 0.016

[[#]知名度はそれなりにあるが、マイナス##イ##メージを持つ人も多い。城下町としての歴史や風##情があり、自然も多く、農業漁業が盛んで豊かな食##文化など「だ##んじ##り」以外の魅力もたくさんある。そういった多彩な魅力を、伝わりやすい手法でアピールしたい。'##]

↑ 例:自治体のニーズ

民間企業等のシーズ

マッチングの可能性のあるシーズ第1位

1 「地域課題や資源のマニュアル化と商品化」 →これまで各地へ行ってもマニュアル化されていないため特定の人しかできない仕組みになっています。マニュアル化する事で、誰でも均一のサービスや内容が提供できます。しっかりしたプログラムで無いため、旅行商品として価格や価値が曖昧だったりします。

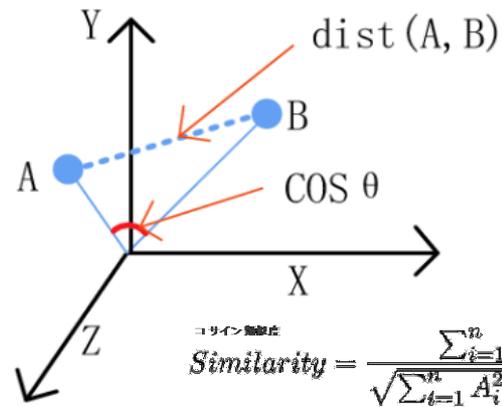
マッチングの可能性のあるシーズ第2位

2 「地域住民のインストラクター化」 →これまでの観光人材の多くは、人材不足のため地域##お##こし協力隊や外部の方に依存されてきている部分が多くありましたが、住民の人材を活用する事ではなくなる事はありません。また、これからの観光は地域の方に教えてもらう体験や交流、学びが求められます。また、これらの副収入によりモチ##ベーションが上がります。

マッチングの可能性のあるシーズ第3位

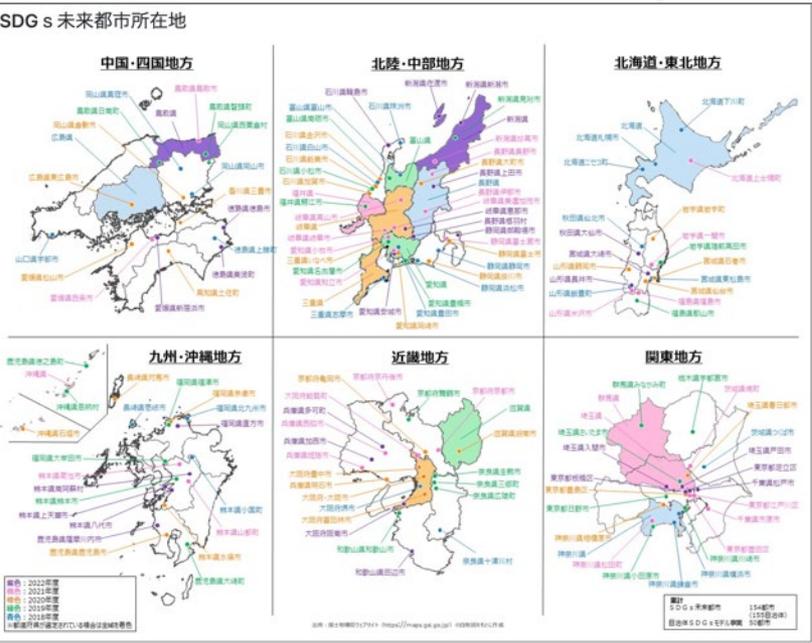
3 「集客・誘##客」 →これまでの経験で400社以上の本店支店の旅行会社と取引があります。地方に行くと、よく外部のプロモーションばかりしている例がありますが、資源やプログラムを住民に体験してもらうシティープロモーションはとても大事です。また、外部誘##客も個人、団体、社員旅行、教育旅行など相手を考える事が必要です。

マッチング



取り組み同士の関連を可視化し、マッチングを支援するシステムを開発

SDGs未来都市計画におけるKPIとSDGsの関係 (N=154/182)



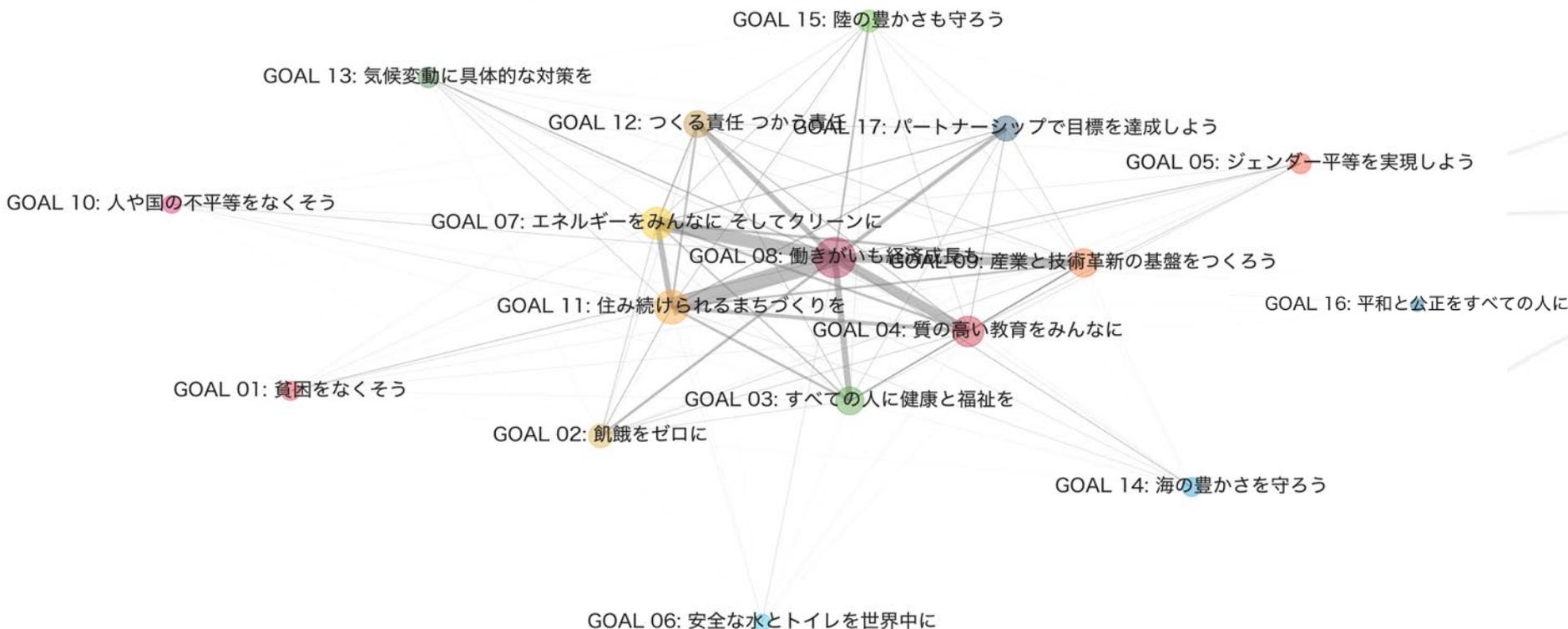
sdgs_city_target

C	D	E	F	G	H
prefecture	city	goal	target	target_kpi	
熊本県	山都町	4	4	4.4	移住者数
熊本県	山都町	8	9	8.9	体験型農業参加者数
熊本県	山都町	7	2	7.2	資源ごみ集団回収量
熊本県	山都町	12	5	12.5	山都町CO2排出量
沖縄県		8	2	8.2	おきなわSDGsパートナー登録企業数
沖縄県		8	2	8.2	1人当たりの県民所得
沖縄県		8	3	8.3	観光客一人あたり消費額
沖縄県		9	4	9.4	温室効果ガス排出量 (基準2013年度1,277.0万t-CO2)
沖縄県		1	2	1.2	困窮世帯の割合 (沖縄県子ども調査)
沖縄県		5	1	5.1	男性の育児休業取得率
沖縄県		3	8	3.8	平均寿命都道府県順位
沖縄県		7	1	7.1	再生可能エネルギーの電源比率
沖縄県		11	4	11.4	再生可能エネルギーの電源比率
沖縄県		7	1	7.1	エネルギー自給率
沖縄県		11	4	11.4	エネルギー自給率
沖縄県		14	2	14.2	再生可能エネルギー発電量
沖縄県		15	5	15.5	再生可能エネルギー発電量
沖縄県		14	2	14.2	温室効果ガス排出量 (基準2013年度1,277.0万t-CO2)
沖縄県		15	5	15.5	温室効果ガス排出量 (基準2013年度1,277.0万t-CO2)
6959	21-31	沖縄県			
6960	21-31	沖縄県			
6961	21-31	沖縄県			
6962	21-31	沖縄県			
6963	21-31	沖縄県			
6964	21-31	沖縄県			
6965	21-31	沖縄県			
6966	21-31	沖縄県			
6967	21-31	沖縄県			
6968	21-31	沖縄県			
6969	21-31	沖縄県			
6970					

指標一覧 +

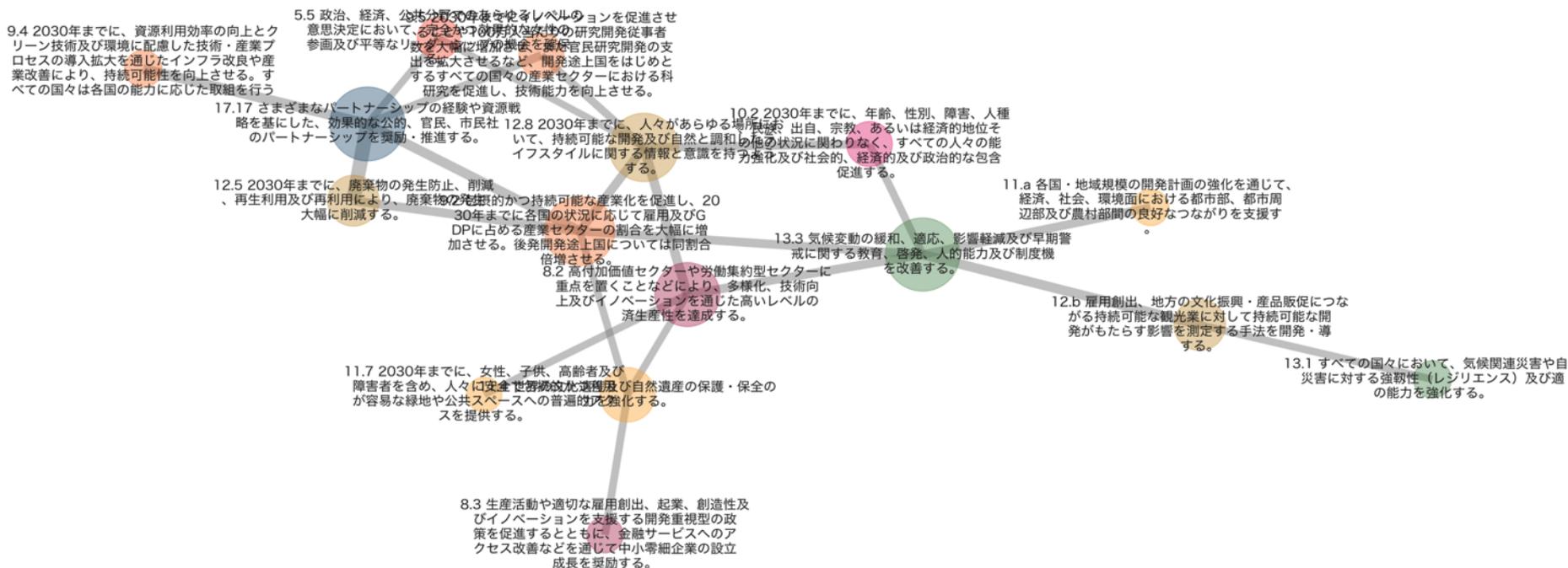
Ready Accessibility: Good to go

SDGs未来都市計画文書内におけるグローバルゴールズの共起関係



G8 (経済) と G11 (まちづくり) を中心に据え、
G7 (エネルギー) を軸としつつ G9 (革新) を起こす
というような文脈で計画を策定しているのが主流

SDGs未来都市計画文書内におけるターゲットの共起関係



G8 (経済) と G11 (まちづくり) を中心に
G12 (ものづくり) / G13 (脱炭素化) を G17 (パートナーシップ) で進める
というような文脈が主流

1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
3. 研究目標及び研究計画
4. 研究開発内容
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況

環境省・地域循環共生圏プラットフォームとの連携



Platform Clover > 特集 > 地域循環共生圏特集

地域循環共生圏特集

法政大学川久保校研究室
公開期間：2023/10/04～2026/01/01

地域循環共生圏とは

地域循環共生圏は、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカルSDGs事業）を積み重ね続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくることにも、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考えです。

その際に、私たちの暮らしは森・川・海とのつながりからもたらされる自然資源が活用できる形でのみ成り立つため、それらを持続可能な形で活用していくとともに、自然環境を維持・回復していくことが前提となります。

本特集ではリアルタイムに地域循環共生圏づくりに向けた日々の取り組みを集約し、皆様が取り組みを行う際の参考事例を提供しています。また、取り組み事例の発信元であるオンラインSDGsプラットフォームの「Platform Clover」を通じて取り組みの実施主体と交流できる機会を提供しています。

地域循環共生圏について詳しく知りたい場合は下記のパナーより「環境省の地域循環共生圏プラットフォーム」をご参照ください。

環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏プラットフォーム

ここをクリックすると環境省のポータルサイトに移動します

環境省ローカルSDGs **地域循環共生圏** > 本文へ > 新着情報 > サイトマップ 環境省 Ministry of the Environment

[しる](#) (地域循環共生圏を知らず) |
 [まなぶ](#) (自立した地域の) |
 [つくる](#) (地域プラットフォームづくりに) |
 [つながる](#) (地域循環共生圏づくりに) |
 [支援制度一覧](#) |
 [企業の皆様へ](#)

「Platform Clover」のご案内

Platform Clover※は、SDGsの達成とサステナブルな世界の共創を目指して取り組む産官学民の関係者を応援するオンラインプラットフォームです。Platform CloverはSDGsの達成に貢献し得る活動の発信や検索、ニーズ・シーズのマッチングなどが可能な、参加者の皆様一人一人が主役のオンラインSDGsプラットフォームです。

1対1のマッチングだけでなく、複数メンバーの共通の課題や関心事に合わせたネットワーキングを通じて協働・共創の「場」を提供します。

- どのようなSDGsの取組事例を検索できます。SDGsのゴールや地域、ニーズ・シーズなどで検索できます。
- アカウントを作成すると、取組宣言やプロジェクト、目標や進捗状況などSDGsに関わる情報を簡易な操作で投稿できます。SDGsの取組を日本全国に発信、PRできます。
- 日々の進捗や報告をアクティビティとして発信することで、共生圏づくりの雰囲気やワクワク感を持って活動している様子をすぐに伝えることができます。
- パートナーを探したり、利用者間の交流ができます。

利用対象ユーザー

産 官 学 民 (あらゆる関係者の参加が可能)

個人 (人) | 組織 (人々)

発信

- SDGs Portfolio※1発信機能
- プロジェクト※2発信機能
- プロジェクトの指標(KPI)による進捗管理機能
- アクティビティ※3発信機能
- ニーズ※4発信機能
- シーズ※5発信機能

AIを活用したレコメンド機能によりマッチングを促進

検索

- プロジェクト※2検索機能
- アクティビティ※3検索機能
- ニーズ※4検索機能
- シーズ※5検索機能
- ユーザー検索機能

交流

- メッセージ機能
- パートナーシップ締結機能

(当初想定していなかった)ローカルSDGs・地域循環共生圏形成に向けた取り組み情報を集約した特設サイトを開設することで全国の動向を可視化

大阪・関西万博の「EXPO共創事業」との連携

大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ 活用ガイドはこちらをクリック

大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ

Platform Clover > 特設 > 大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ

大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
公開期間：2024/02/22～2050/12/31

大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページに戻る

大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ 活用ガイド

Platform Clover > 特設 > 大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ活用ガイド

大阪・関西万博「EXPO COMMONS」特設ページ 活用ガイド

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
公開期間：2023/12/29～2050/12/31

EXPO COMMONSについて知る

詳しく見る (クリックするとコンテンツが表示されます) +

「TEAM EXPO 2025」プログラムでの活動を確認する

詳しく見る (クリックするとコンテンツが表示されます) +

共創を加速するシステム・ツール
<EXPO COMMONS構想に協力いただいているシステム・ツール>

特設サイトの活用手順

Platform Cloverは、オンライン上で運営事務局のあらゆる関係者の協力が、自身のSDGs達成に資する取組を自由に「発信」し、他団体の取組を「検索」し、関係者同士で「交流」できることによるプラットフォームです。

利用対象ユーザー
産 官 学 民
あらゆる関係者の参加が可能
個人 組織

発信 検索

- SDGs Portfolio※1発信機能
- プロジェクト※2発信機能
- AIを活用したレコメンド機能によりマッチングを促進
- プロジェクト※2検索機能
- アクティビティ※3検索機能

(当初想定していなかった)大阪・関西万博(SDGs万博)の「EXPO共創事業」との連携により、全国のSDGsアクションの横展開・共創の輪の拡大に貢献

目標の達成状況：目標を大きく上回る成果を上げた

①SDGsの視点に基づく各自治体の特徴(長所、課題等)の把握

- ・ 全国自治体を対象にSDGsに関する全国アンケート調査や15のSDGs未来都市へのヒアリング調査を実施した。また、SDGs概念翻訳システムの開発およびSDGs連環構造(nexus)の可視化等のデータ駆動型のアプローチも行い、自治体のSDGs実装における課題を多角的に把握した。
- ・ 内閣府地方創生推進事務局と連携してSDGsの進捗を測る「地方創生SDGsローカル指標」を整備・公開した。また、全国の自治体のSDGs達成に向けた取組の進捗状況の可視化を行い、オンライン上で公開した。

②地域課題を解決するための「SDGsオープンイノベーションプラットフォーム」の開発

- ・ SDGsの達成に向けて取り組む多くの関係者が抱えるニーズやシーズを登録し、発信することが可能である「SDGsオープンイノベーションプラットフォーム」をデザインした。
- ・ オンライン上での交流機能やサブテーマ3が開発したSDGs概念翻訳システムによるレコメンド機能等を実装し、ユーザー間のマッチングの促進を可能とした。さらに、産官学民のSDGs達成に資する取組の推進を支援するオンラインデータベース「SDGs Action DB」を開発してプラットフォーム上で公開した。
当初の計画以上にSDGsオープンイノベーションプラットフォームの機能を充実させることができた。

③ローカルSDGsの推進および地域循環共生圏の形成に向けたビジョン・計画の策定支援

- ・ SDGsオープンイノベーションプラットフォームを活用したビジョン・計画の策定支援を全国で行った。
- ・ 環境省ローカルSDGs・地域循環共生圏プラットフォームや日本国際博覧会協会の「EXPO共創事業」との連携が実現した。当初計画以上にSDGsオープンイノベーションプラットフォームの利用拡大につながりつつある。
- ・ 各サブテーマの研究成果を結集することによって、ローカルSDGsアクションの達成状況の評価を可能とするハイブリッドアナライザーを開発した。人間とAIがコラボレーションすることによって自治体や企業などの組織・団体のSDGs達成に資する取り組みを一層深化させ得ることを示した。

1. はじめに（研究背景）
2. 研究開発目的
3. 研究目標及び研究計画
4. 研究開発内容
5. 結果及び考察
6. 目標の達成状況と環境政策等への貢献
7. 研究成果の発表状況

研究成果の発表状況（その他）

成果の分類

査読付論文に準ずる成果発表（本）	11
その他誌上発表（査読なし）（本）	9
口頭発表（国際学会等・査読無し）（件）	5
口頭発表（国内学会等・査読無し）（件）	35
国民との科学・技術対話（件）	129
マスコミ等への公表・報道等（件）	11
研究成果による受賞（件）	8
その他の成果発表（件）	1

ありがとうございました